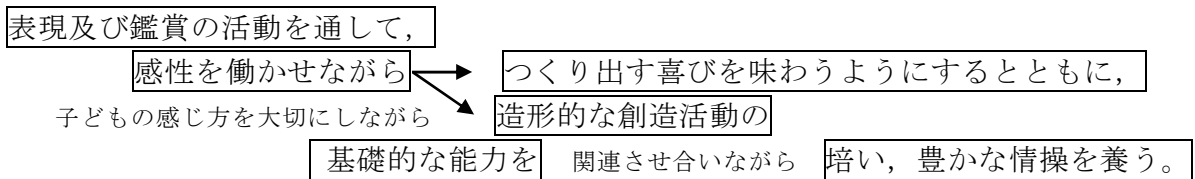


1 図画工作科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援の学習指導要領等の改善について(答申) 抜粋

- ・ 感性を働かせて思考・判断し，創意工夫しながら表現したり作品を鑑賞したりするという一連のプロセスを働かせる力を育成すること
- ・ 子どもたちの興味や関心の高まりを資質や能力の向上に生かす指導の改善を図ること
- ・ 感じ取ったことを基に，自分の思いや考えを大切にしながら，自分なりの意味を発見する鑑賞の学習の充実

(2) 教科の目標の確認

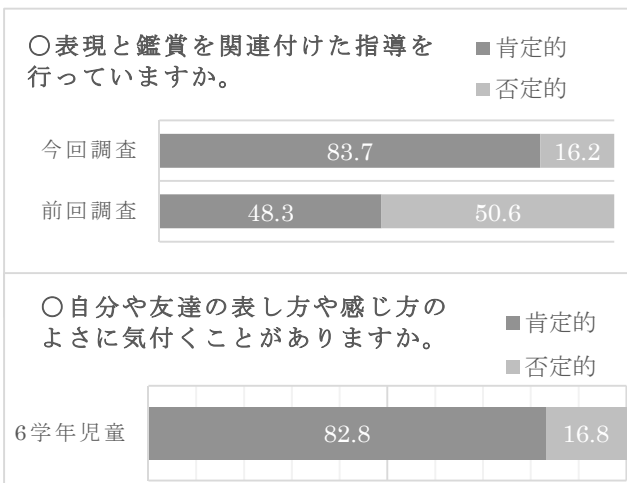


(3) 各学年の題材における指導事項の確認

学習指導要領解説 p.78～79 の各学年の目標及び内容の系統表を参考にして指導する

- 各学年の各題材において，アイウの事項すべてを指導する。
 - ・ 題材の目標は，何をする（発想・構想や創造的な技能など）のか分かるものを作成する。
- 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』（平成 23 年 11 月）の活用
 - ・ ねらいを明らかにするため，評価規準を作成し，そこから立ち上げる目標であっても可。
 - ・ 実際の評価を研究授業で実際にやってみる。授業後 3～5 分で評価できるメモも，評価規準がしっかりしていればできる。（→『仙台版スタンダードカリキュラム』の活用）

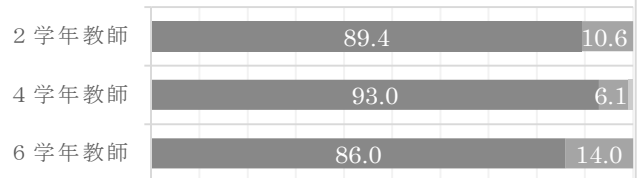
(4) 小学校学習指導要領実施状況調査を踏まえた指導上の留意事項



学習指導要領改訂に向けて，国内の 6 学年（6000 人）と担当教師を対象に，ペーパーテストと質問紙で実施。

(表の数値は%)

○児童がお互いの表し方や感じ方のよさに気付くような授業を行っていますか。 ■ 肯定的 ■ 否定的



※ 思考力・判断力・表現力等の育成は，主に表現での発想や構想の能力を働かせる場面と，鑑賞での鑑賞の能力を働かせる場面で育成するため，主にこの 2 つの能力に関する調査となった。(調査結果の詳細は文部科学省の HP 公表済。参照のこと。)

※ 他に，「図画工作科の学習が好きだ」は，80%で前回とあまり変わらないが，実施したすべての教科で「○○科の学習をすれば，普通の生活に役に立つ」という肯定的な回答が増えている。(図画工作は 13%上がって 60%)

小学校 図画工作

① 表したいことを思い付くには、指導の工夫が必要 内容の系統表のアの指導事項が大切

調査では、表すことを見付けられない児童が20%存在し、発想の段階はやはり課題といえる。実際の学級では、友達同士の関わりによって思い付いているように見えていたり、最初に思い付かなくても次第に表したいことが立ち上がっていたりするため、あまり問題には見えないことがあるが、材料に十分に触れることや作品例の提示（効果的な場合のみ）などの指導の工夫が必要である。なお、アの事項を達成し思い付いた児童の99%がイの事項へスムーズに移行している。

② 図画工作の内容全体をバランスよく指導する A表現（1）・A表現（2）・B鑑賞（1）

造形遊びと表す活動を、バランスよく関連を考え計画を立てて指導する。テーマ・材料・方法手段などを、教師がすべて決めない題材でもあるように注意する。

③ いろいろな作品を鑑賞させる

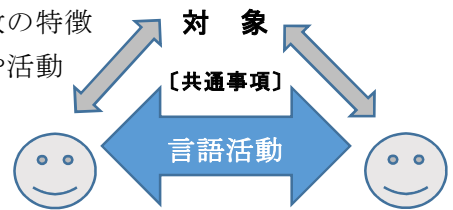
自分たちの作品だけでなく、身近なものや伝統文化に関わる作品でも鑑賞する機会を広げる。

④ 指導事項を明確にする

ねらいや視点を基に、鑑賞イの指導事項「話したり・話し合ったり」を通して面白さや違いを感じさせる。

⑤ 【共通事項】を理解する

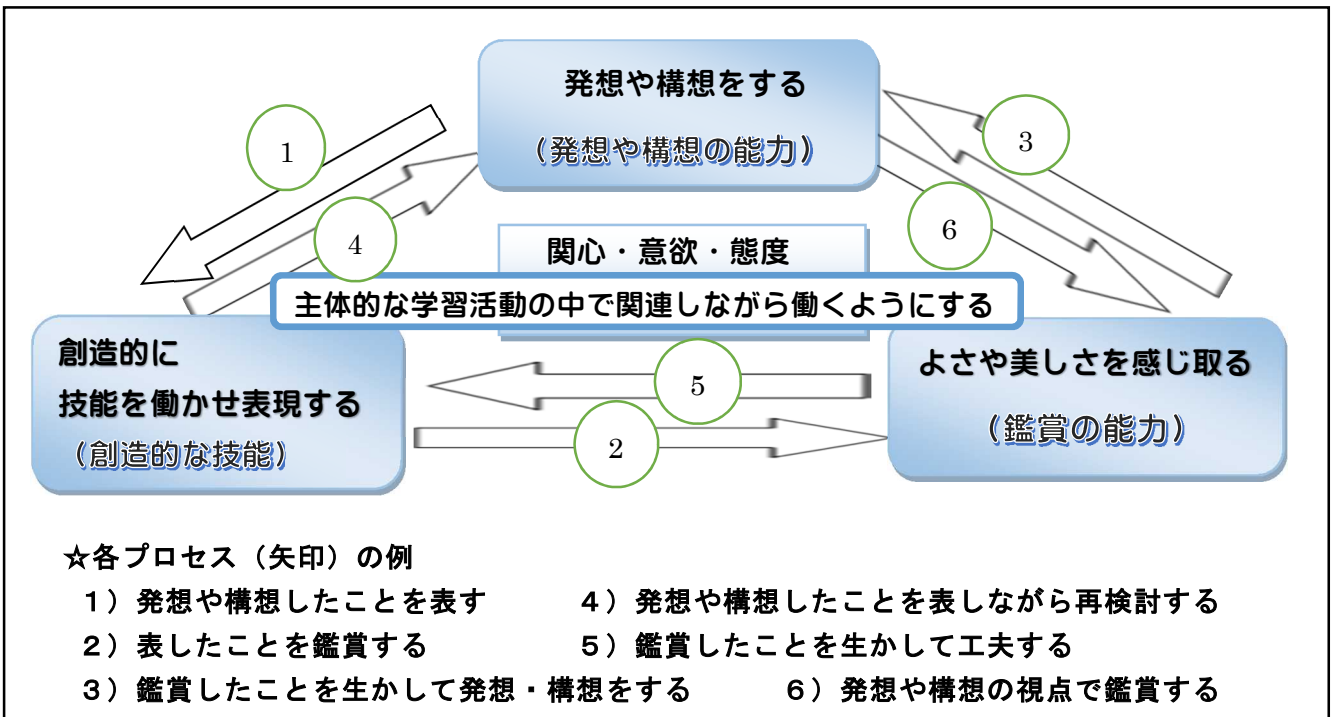
自分の感覚や活動を通して、形や色などを捉え、イメージを持つ。調査から、一つの形や色からのイメージは説明できるが、複数の特徴からの説明はできない様子が見られた。教師も、児童の作品や活動からより一層【共通事項】を理解することが必要である。



⑥ 用具は何度も活用する機会をつくる

各学年で使った材料や用具を、何回も発展的に使わせる。次の機会に、必要な材料や使える用具を考え、自分の思いを具体的に表現できるようになる。

⑦ 学びのプロセスを考え授業展開を考える



⑧ 共に学び高め合う学習としての指導を充実する

互いの関わりや作品のよさを感じ取ること、様々な感じ方に気付くことに関する指導を工夫する。

